



阪神カウンセリング・ラボ ニュースレター

2021 8月号



ウナギの話(2) 7月号から続く

7月28日は土用の丑の日でした。皆さん、ウナギは召し上がりましたか。
ラジオ番組「武田鉄矢今朝の三枚おろし」で聞いた話をもとに、7月号から続く、
ウナギの話。



ウナギはどこから来るのか。

1900年代初め、デンマークの海洋学者は、蒸気船で、地中海、大西洋沿岸をウナギの仔魚を探し続け、仔魚が沿岸では大きく、沖では小さいことをつき止めます。第一次世界大戦でやむなく調査を中断しますが、戦後すぐに再開し、たくさんの仔魚を捕獲して調べた中で一番小さい仔魚が見つかったところが産卵地だと探し当てたのが、大西洋北東のサルガッソ海だったそう（ところがそれから約100年、調査研究により大西洋ウナギの産卵地はそれより東の新たな海域の可能性が高いと新説を示したとのこと）です。

大西洋で生まれたウナギは、二手に分かれて長い旅をします。ヨーロッパへ向かうヨーロッパウナギと、アメリカへ向かうアメリカウナギ。卵からふ化し、仔魚になって、それぞれが、親がたどった道を間違えずに、海流が激しくなる時に合わせて数千キロの旅をするといいます。そして、それぞれの地で成長したウナギは、また産卵地の海に帰ってくるのだそう。

太平洋のニホンウナギの産卵場所はマリアナ海溝。これは、東大などのチームが2009年にこの地で卵を見つけ、突き止めたのだそうです。つい近年のこと。なんと産卵地の調査が始まってから80年近く経ってのことなのだそうです（小学校4年生の国語教科書の教材文「ウナギのなぞを追って」に、この調査の様子について書かれています）。

マリアナ海溝で生まれたウナギは、仔魚となり、シラスウナギとなって、海流に乗って数千キロ、はるばる日本までやってくる。そして日本の川で成長したうなぎは、生まれ故郷のマリアナ海溝に帰っていき、そこでまた産卵します。産卵地と日本へのルートは解明されましたが、産卵地にどう帰っていくのか、オスとメスがどのように出会うのかなどは、まだわかっていないのだそうです。

長い年月をかけて、解けた謎はあるものの、今なお解明されていないことも多く、今後も調査・研究が続けられるとのこと。ウナギの生態は謎が多いということに本当に驚いています。



ウナギの一生、はるか遠い旅、この話から私がひらめいたのは、人にもある細胞の中のエネルギーの存在です。これはモノの根底にはすべて備わっている、宇宙物理学で解明された、ゼロポイントフィールド (zero point energy something great) であるということです。

9月号に続くー

阪神カウンセリング・ラボ

<https://www.hanshin-cl.com/>

*梅田相談室

〒530-0014

大阪市北区鶴野町4-11 朝日プラザ梅田9階910

Tel/Fax 06-6147-2533

E-mail hanshin-cl@star.ocn.ne.jp

*明石相談室

〒673-0891

明石市大明石町1-7-4 白菊グランドビル512

Tel 078-917-6880

